

高まる IT セキュリティプロフェッショナル認証の必要性

NTT コミュニケーションズ株式会社
滑川 愛恵

CISSP 試験問題が日本語化され、2004 年 7 月に東京で第一回試験が開催されてから、早いものでもう一年が経つ。日本語化される前は日本にたった 40 名ほど（うち日本国籍者は 15 名のみ）しかいなかった CISSP 認定者も、2005 年 6 月には 300 人以上にまで増加した。この驚異的な増加率は、情報セキュリティのプロフェッショナルとしての能力を証明（しかも国際的に）できる CISSP が、企業にとっても個人にとっても、まさに渴望された資格であったことを物語っている。

CISSP 認定者の増加に伴い、CISSP 認定者を中心としたセキュリティプロフェッショナルのコミュニティを作る動きも出てきた。例えば本年 5 月に (ISC)² 日本支部により開催された「CISSP Forum 2005」には多くの CISSP 認定者が集結し、最新情報プレゼンテーションやプロフェッショナル同士の交流を楽しんだ。こうした場で育まれる繋がりもまた、情報セキュリティのプロフェッショナル達にとって大変刺激的なものである。

また、小職が参加している JNSA 教育部会下の CISSP ワーキンググループでは、(ISC)² と JNSA の提携により、日本に特化した分野や特有の問題等について検討し、調査を進めているところである。本調査は日本独自分野の策定、ひいては日本版・CISSP 上位資格作成を目標としている。

このように日本における動きが盛り上がってきている今、他国での (ISC)² 及び CISSP の動向について、いくつかニュースをご紹介しますと思う。

1. (ISC)² とは

まず、そもそも (ISC)² とは何かを簡単にご説明したい。International Information Systems Security Certification Consortium、略して (ISC)² (アイエスシー・スクエア) は、全世界の情報セキュリティプロフェッショナルに対し認証資格を開発・提供している NPO (非営利法人) である。1989 年の創立以来、既に 100 カ国以上で 34,000 人以上のプロフェッショナルを認定しており、米国のフロリダに本拠地を置く他、ロンドン、香港、そして東京にオフィスを持つ。

(ISC)² は、「Certified Information Systems Security Professional (CISSP)」と「Systems Security Certified Practitioner (SSCP)、またそれぞれ特定の分野に特化した CISSP の上位資格 (ISSEP、ISSAP、ISSMP) を提供している。なかでも情報セキュリティ資格のゴールドスタンダードである CISSP は、資格試験システムの認証を実施するための国際的ベンチマークである「ISO/IEC 17024」に基づく ANSI (American National Standards Institute: 米国規格協会) の厳格な基準を満たした、最初の IT 資格である。認証を受けるには、まず 4 年間以上 (大卒は 3 年間以上) の実務経験を有することが条件とされ、その上で 6 時間・250 問の筆記試験に合格し、その後推薦状と職務経歴書を提出し審査を受けなければならない。

(ISC)² はまた、CBK (Common Body of Knowledge の略。プロフェッショナルに必要とされる共通知識をまとめたもの) に基づく教育プロダクトやトレーニングサービスも提供している。さらに CBK の維持・更新についても責任を持ち実施している。

昨年 12 月、(ISC)² は世界各国の主要企業や政府などの後援のもとに、2005 年を「The Year of the Information Security Professional (情報セキュリティプロフェッショナルの年)」とする宣言を発表した。

この宣言の目的は、グローバル情報社会の中で、

情報セキュリティプロフェッショナルが果たす重要な役割に対する理解を深め、また意識を向上させることにある。

宣言に基づき、情報セキュリティプロフェッショナルを支援する他の団体などと協同し、声明書や公共の場でのパネルディスカッション、スピーチ、記事執筆やその他の方法により、2005年、さらにそれ以降もこの活動を実施していくこととしており、現在までに世界各国の50以上の企業や団体が、この宣言に賛同の意を表している。

2. 米国では

(ISC)²本部のある米国においては、政府機関を中心に様々な企業や団体において(ISC)²の資格(CISSPなど)やトレーニングが奨励されている。

最近では2005年6月に米国従軍軍人省(U.S. Veterans Affairs Department :VA)において、100人目のCISSP認定者が誕生したことが話題にあがっていた。

(ISC)²によると、同省は近年プロフェッショナル認証資格の必要性を強調することで、サイバーセキュリティスタッフの強化に積極的に参加してきた。その目標の一つとして「CISSP認定者の従業員を100名確保する」と掲げ、結果としてCISSP資格を持つ情報セキュリティスタッフの数は2001年時の4人からたった4年間で100人へ、驚異的な伸びを記録した。

VAのOffice of Cyber and Information Securityのトレーニングリーダーは、「VAは省内の情報セキュリティ能力の向上に大きな関心を寄せている」「CISSP認定者を獲得することが、従業員の能力向上施策の一つとして、大いに奨励されている」と語っている。

ちなみに、2005年5月9日から13日まで米国ダラスで開催された「The Veterans Affairs InfoSec

2005 Conference」は、今年で年次開催9年目を迎え、連邦政府の中では最大の非国防総省主催イベントとなった。

3. アジアでは

一方アジアにおいて最近の動向といえば、今年4月にタイのACIS Professional Center Co. Ltd. (ACIS)との協定を発表したことが挙げられる。この協定では、タイにおける候補者に対しISO/IEC17024規格に適合した情報システムセキュリティの試験及び教育を提供することとしている。

(注：ACISとは、タイにおいて最重視されている情報セキュリティトレーニング、監査及びコンサルティング会社であり、また、マネージドセキュリティソリューションプロバイダーでもある。)

バンコクで催された調印式には、タイ政府高官やITプロフェッショナル、ジャーナリスト等が出席し、共同記者会見を行った。

その場で、ACISの代表取締役及びCEOでありCISSP認定者でもあるPrinya Ho-anek氏はこう語っている。

「昨今の情報セキュリティを取り囲む状況は、潜水艦を中心とした闘争のようである。その脅威はあらゆる方位から、あらゆる時にやってくる。そのため、CISSPのような情報セキュリティプロフェッショナルは、情報コミュニケーション技術の主要インフラの維持において必須と言える。

『人』は、情報コミュニケーション技術が依存するPPT要素の三つ(People、Process、Technology)の中でも特に重要だ。情報セキュリティプロフェッショナルには深い知識と経験が求められる。彼らなしでは、技術は役に立たない。

情報セキュリティに従事するプロフェッショナルへの認証は、多くの場所で既にスタンダードになりつ

つある。タイは他のアジア諸国に比べ、十分な数の情報セキュリティプロフェッショナルが存在していないが、(ISC)²との関係を軸にタイの情報セキュリティプロフェッショナルのスタンダードを高めるため、ACISも積極的に活動していくつもりだ。」

尚、タイにおける第一回 CBK Review Seminar が2005年5月に開催された模様。

4. 終わりに

これまで見てきたように、情報セキュリティプロフェッショナル認証の必要性に対する認識はあらゆる所で年々高まってきている。ACISのHo-anek氏の言葉にもあるように、セキュリティの要は「人」だ。プロフェッショナルを育て、増やしていくことが今後より一層求められていくはずである。

最後に、(ISC)²のウェブサイト上には、他にも多数の情報セキュリティに関連する最新ニュースが掲載されている。ぜひそちらもお時間のある時に一度アクセスされることをお勧めしたい。

文中の社名、資格名等は登録商標です。